

次世代育成支援行動計画（特定14事業）の進捗状況について

事業名	具体的事業内容	担当グループ	事業量、目標 達成予定年度	26年度実績	事業達成度	事業の評価	課題、今後に向けての改善事項等		事業方針の内容（未実施・廃止・中止の理由、追加・拡大の内容）
乳幼児健康支援一時預かり事業（病後児保育〔派遣型〕）	保育所に通所している児童が病気の回復期である場合に、看護師等を派遣し、その居宅で保育を行う。	児童支援		未実施					
ファミリーサポートセンター事業	子育ての援助を受けたい人といいたい人を会員とする組織により、保育所（園）等への送迎や、一時的な預かり保育等について、助け合いを行う。	児童支援	1カ所 （26年度）	未実施	E 着手できなかった	現体制での実施及び協力会員の確保が難しいため実施出来なかった。		未実施	量の見込みの推移も少ないため、今後の状況をみながら事業実施について検討していく。
放課後児童健全育成事業（学童保育所）	保護者が、昼間就労などにより保育ができないおおむね小学校3年生までの児童を対象に、適正な遊び及び生活の場を考え、児童の健全育成を図る。	児童支援	3カ所 （26年度） 150人	学童保育所3カ所 132人	A 事業内容を達成した（100%）	共働き家庭など、保育が出来ない児童の預かりを実施出来た。		継続	
子育て短期支援事業（ショートステイ事業）	保護者の疾病、仕事、育児疲れなどによって、児童の養育が一時的に困難となった家庭の児童や母子を短期間（原則7日以内）預かる。	児童支援		未実施					
子育て短期支援事業（トワイライトステイ事業）	保護者が仕事その他の理由で平日の夜間又は休日に不在となり、家庭での児童の養育が困難となった場合に、保護し、生活指導、食事の提供等を行う。	児童支援		未実施					
乳幼児健康支援一時預かり事業（病後児保育〔施設型〕）	保育所に通所している児童が病気の回復期である場合に、病院等の施設又は保育所（園）で一時的に預かり、保育を行う。	児童支援		未実施					
一時預かり事業（一時保育事業）	保護者のパート就労等や冠婚葬祭、疾病、入院等により、緊急・一時的に保育を必要とする児童の保育を行う。	児童支援	500日 3カ所 （26年度）	328日（40人） 3カ所 子育て支援センター 常設保育所2カ所	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	毎年300日以上緊急的な一時預かりを実施出来た。	預かりをお願いされても、一日の預かり人数に限度があり、保育者の確保が難しい時もあるが、できるだけ希望に応じた預かりができるよう受け入れていきたい。	継続	
特定保育事業	保護者の就労形態の多様化に対応して、週2、3日程度、又は午前か午後のみなど、必要に応じて保育を行う。	児童支援		未実施					
つどいの広場事業	乳幼児を持つ子育て中の親が、気軽に集い交流する場を開設して、相談に応じ、情報の提供及び助言等を行う。	児童支援		未実施					
地域子育て支援センター事業	乳幼児の保育に関する相談に応じ、必要な情報の提供及び助言を行うとともに、子育てでサークルへの支援等を行う。	児童支援	1カ所	延10,834 1カ所 人利用	A 事業内容を達成した（100%）	就園前の教室に通う子、満3歳で入園してしまう子が多く利用者が減ってきているので、お誘いの声かけをしていく。サークル支援はサークル自体がなくなり支援等もできなかった。	親子が楽しく過ごせる場、親のニーズに答えられるようなセンター開放を行っていきたい。相談業務も増えてきているので、安心して子育てできる場にしていきたい。	継続	
通常保育事業	保護者の労働又は疾病等により、家庭において児童を保育することができないと認められる場合に、保護者に代わり、保育所（園）での保育を実施する。	児童支援	常設 定員 170人	定員 実績 120人 94人	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	年々児童数は減少しているが、保育に欠ける児童を対象に保育園での保育を実施できた。		継続	
延長保育事業	保護者の就労形態の多様化に対応するため、通常の保育時間（11時間）を超えて保育を行う。	児童支援		未実施					
休日保育事業	日曜・祝日等に保護者の就労等で保育に欠ける児童の保育を行う。	児童支援		未実施					
夜間保育事業	基本的に保育時間をおおむね午前11時から午後10時までの11時間としている保育サービス。	児童支援		未実施					

次世代育成支援行動計画（特定14事業以外）の進捗状況について

事業名	具体的事業内容	担当 グループ	事業量、目標 達成予定年度	26年度実績	事業達成度	事業の評価、改善事項等	課題、今後に向けての改善事項等	今後の 事業方針	事業方針の内容（未実施・廃止・ 中止の理由、追加・拡大の内容）
1 子育て家庭の支援									
エンゼルサポート 120	2歳未満の乳幼児を育てている子育て世帯を応援のため、おむつ用ごみ袋を支給。申請は1回。月5枚を基本に最高120枚支給。	保健福祉		支給143人 16,420枚	A 事業内容を達成した（100%）	おむつ用ごみ袋を支給することにより、子育て世代の経済的負担の軽減が図られた。	今後も継続的に実施することにより経済的負担を軽減し、子育て支援を図っていく。	継続	
子育てガイドブック 発行	保育サービスや公共施設、保育所、公園などの情報を親に的確に提供する。	児童支援	（21年度）	継続	A 事業内容を達成した（100%）	平成24年度に内容を改訂し発行している。	改訂版を作成し発行していきたい。	継続	
インターネットによる 子育ての情報提供	保育サービスや公共施設、保育所、公園などの情報を、携帯電話やインターネットを利用して親に的確に提供する。	児童支援 保健福祉	（21年度）	実施	A 事業内容を達成した（100%）	行事等を町HPに載せたりして情報提供を行っている。		継続	
しゃきっとプラザの 活用	プレイルームを子育て親の居場所や相談の場として有効活用する。	保健福祉	（21年度）	プレイルーム利用数 1,451組 延べ3,509人	A 事業内容を達成した（100%）	子育て中の親子の居場所や交流の場として活用されている。	施設、備品等の計画的な更新	継続	
妊婦の健康支援	安心・安全な妊娠出産ができるよう妊婦一般健康診査にかかる費用を助成するとともに交通費を助成することにより母体・胎児の健康確保を図る。	保健福祉		助成125人	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	妊婦一般健康診査にかかる費用を助成し妊婦及び胎児の健康管理の充実、経済的負担の軽減が図られた。	妊娠届け出時に喫煙率が高い傾向がわかり改善にむけて妊婦に啓発していく。	継続	
新生児等訪問指導	新生児と保護者を対象に育児や発達に関する相談、育児相談、健診や予防接種の説明などを行う。	保健福祉		123件	A 事業内容を達成した（100%）	家庭訪問により母子の健康の保持増進と育児不安の軽減を図ることができた。	育児不安がある母親は増えており今後も支援を続けていく。	継続	
乳児相談	健やかな子どもを育てるために、母親の相談に応じ、乳幼児の健康保持増進を図り、育児を支援する。	保健福祉	12回	12回	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	母親の相談に応じ、必要なサービスにつなげたり乳幼児の健康保持増進を図ることができた。	育児不安がある母親は増えており今後も支援を続けていく。	継続	
乳幼児健康診査	発達の著しい乳児に対し集団検診を実施し、異常の早期発見、離乳食指導、育児指導を行い、乳児の健康保持・増進を図る。	保健福祉	12回	4か月：12回 10か月：9回	A 事業内容を達成した（100%）	異常の早期発見、離乳食指導、育児指導により乳児の健康保持・増進が図られた。	育児について悩みを訴える母親は多く、育児教室や訪問等で健診後も継続支援をしていく。	継続	
1歳6か月健康診査	運動機能、精神発達、聴覚などの異常の早期発見、助言、育児・栄養・歯科指導を行い、幼児の健康保持・増進を図る。	保健福祉	9回	9回	A 事業内容を達成した（100%）	発達に遅れのある児の早期発見、育児相談等を行い、幼児の健康の保持・増進を図ることができた。	今後も未受診者に対し、受診勧奨し状況確認と必要時支援を継続していく。	継続	
3歳児健康診査	幼児期における疾病、視聴覚の異常、精神・運動の発達遅滞児等の早期発見を行い、幼児の健康保持増進を図る。	保健福祉	9回	9回	A 事業内容を達成した（100%）	児の発達の遅れや視聴覚の異常等の発見、必要な医療や支援機関につなぐことにより、健康保持・増進が図られた。	引き続き他機関と連携し、未受診者に対する働きかけ、状況把握に努める。	継続	
5歳児相談	集団生活を行う中で築かれる社会性の発達、自己統制力の発達の確認を行い必要な支援を図る。	保健福祉		8回（20名）	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	家族や関係者が児の特徴や対応方法について理解することができた。支援機関につなげた方もいる。	就学に向け、関係機関との共有や引き継ぎの機会を確保していく。	継続	
移動総合相談	専門機関による発達遅滞児の相談、発達状態の確認、福祉制度実施のために必要な判断の機会の確保を図る。	保健福祉	8回	7回（20名）	A 事業内容を達成した（100%）	児童相談所職員による発達遅滞児の相談、発達状態の確認、福祉制度実施のために必要な判断の機会を提供することはできた。	今後も発達支援センター等と連携しながら、相談・支援につなげていく。	継続	
食育学習機会の提供	夏休みなどを利用した親子調理教室の開催やレシビなどの情報提供、食生活に対する学習機会の提供	保健福祉	（21年度）	小学校児童対象 食育教室2回18人	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	親子の料理教室は実施していないが子どもの実習機会が年2回に充実し、給食試食会を通じPTAへの情報提供の機会を得た。	引き続き夏休み、冬休みを利用した調理教室の開催を継続する。	継続	

事業名	具体的事業内容	担当グループ	事業量、目標 達成予定年度	26年度実績	事業達成度	事業の評価、改善事項等	課題、今後に向けての改善事項等	今後の 事業方針	事業方針の内容（未実施・廃止・ 中止の理由、追加・拡大の内容）
地産地消の推進	安心・安全な食材の提供を目指し地産地消に取り組む	学校給食	美幌産米の使用 収穫時～毎月1回 美幌産野菜使用 （21年度）	美幌産米の使用収穫 時～毎月1回 美幌 産野菜使用	A 事業内容を達成 した（100%）	目標を達成することができた。	今後も継続して取り組む。	継続	
子どもチャレンジ クッキング	料理を通して地元産物を考えるとともに、生活に必要な基礎的な技術を習得する。	社会教育		年2回 参加延 30名	B 事業内容をほぼ 達成した（80%）	主にお菓子づくりをとおし料理の技術を学ぶとともに、七夕・ひなまつりなど時節の行事をとおして日本の風習や生活を学ぶ機会をつくることができた。	関係委員と連携しより効果的な内容で実施するために継続的に協議・実施する。	継続	
思春期保健対策の充実	思春期の身体を守る正しい知識と情報伝達のため学校等と連携をとり、学習機会や相談体制の充実、医師、保健師の講座開催	保健福祉	（21年度）	小学生177名	B 事業内容をほぼ 達成した（80%）	学校と連携しながら、薬物・喫煙についての健康教育を実施し学習の機会をもつことができた。	今後も継続実施に向け、学校と連携を図っていく。	継続	
産婦人科医療対策 （助産師相談の充実）	産婦人科医師の確保に最大限に取り組む 助産師によるきめ細やかな相談体制の充実	町立病院	（21年度）	未実施	E 着手できなかった	産婦人科医師が配置されるまでエントリネットでは対応している状況。	全国的な課題であり困難なことではありますが、引き続き産婦人科医師の確保に努めたい。	継続	
妊婦エントリネット 119	事前に妊婦情報を届け出、登録されると、緊急性があると判断したときに出産予定医療機関へ、救急車を自動させて妊婦を搬送する。	消防署		登録 61名 うち、搬送 0名	A 事業内容を達成 した（100%）	制度の認知度も高くなり、登録することによりお産に対する不安が解消できる。	安心・安全なお産を提供できるよう、救急隊員の周産期ケアに対する研修の継続と手技等の向上・維持に努める。	継続	
ひとり親への相談体制の整備	増加傾向にあるひとり親家庭に対し、自立支援、就業支援、相談体制の充実と福祉サービスの情報提供を推進する。	保健福祉	（21年度）	未実施	E 着手できなかった	個々の事例に対応している状況。体制整備は出来ていないが美幌町福祉計画において計画しているため継続とする。		継続	
障がい児施策の充実 （NPOへの支援充実）	障害に応じた的確な情報提供を行う。NPOマイスペース美幌への支援、連携を行い、子どもの権利条約の啓蒙、充実を図る。	保健福祉 児童支援	（21年度）	完了	A 事業内容を達成 した（100%）	人件費の支援により、利用者に対する十分なサービス提供につながり、NPOへの支援の充実が図られた。		中止	目標としたNPOへの支援を行うことができ、障がい児支援施策の充実を図ることが出来たため。
子ども発達支援センター （母子通園センター）	発達に心配のある幼児、障害を有する幼児に対し、通園の方法により指導を行い、育成を助長する。	児童支援	1か所 定員20名	1か所 53名	B 事業内容をほぼ 達成した（80%）	前年度より受け入れ人数を増やすことができたが、1人あたりの利用回数が減ったケースがあった。	利用希望者が増えることが予想される。	拡大	人員と療育室の確保
幼児ことばの教室	幼児の健全育成と福祉の増進を図り、心身ともに健やかに育成されるよう援助し、必要な指導を行う。	児童支援	1か所 定員20名	1か所 42名	A 事業内容を達成 した（100%）	利用希望者を全員受け入れることができた。	利用希望者が増えることが予想される。	拡大	人員と指導室の確保
児童虐待防止対策の 充実（関連機関の連携）	児童虐待を未然に防ぐとともに虐待にあった子どもを守るため、虐待ケースワークチームの連携を密にし、広報活動を行う。	児童支援	（21年度）	継続	A 事業内容を達成 した（100%）	ケース会議を開催し対応している。		継続	
プレマクラス（妊娠中からの講座）	妊娠中から子育ての環境づくりについて学習するとともに、仲間づくりを行い、子育ての孤立化を防止する。	保健福祉	3回	3回（70件）	B 事業内容をほぼ 達成した（80%）	子育ての環境づくりについて学習ができ、妊婦同士の交流を図ることができた。	マタニティストレッチ、離乳食作り、健康管理の学習などプログラム内容の改善	継続	
両親教室（妊娠中からの講座）	妊娠中から子育ての環境づくりについて学習するとともに、仲間づくりを行い、子育ての孤立化を防止する。	保健福祉	3回	3回（17件）	B 事業内容をほぼ 達成した（80%）	妊娠、出産、育児における父親の役割を理解することができた。	プログラム内容の改善	継続	
子育てサロン・子育て サークルの育成 （子育てサロンの設置）	保育所跡や公共施設の活用 シルバー人材（老人クラブ等）の運営協力による世代間交流推進	児童支援 保健福祉	（21年度）	未実施	E 着手できなかった	既存の子育てサークルが解散した。また、要望もなく、着手するにいたらなかった。	要望に応じ、人材を見つけて着手できるようにしていきたい。	継続	
子育てサポーターの 養成（保育ママ、サ ポーター養成講習 会、登録、活用）	子育て親子を支援する人材の発掘と養成のため、子育てサポーター養成講習会等を実施するとともに、登録し活用する。	児童支援	（21年度）	年 1回開催 登録 6名	B 事業内容をほぼ 達成した（80%）	前年度の補習講座、新規受講者4名が、ボランティアさんとして登録してもらうことができた。	今年度も新規のボランティアさんが、増やせるよう募集し、登録者を増やしていきたい。	継続	
子育て支援ネット ワークの設置	子育てサロン、子育てサークルの開設のため、行政とサポートチーム、子育て支援センターでネットワークづくりを行う。	児童支援	（21年度）	未実施	E 着手できなかった	ネットワークづくりの着手ができなかった。	研修会などの参加で、他の町の話聞くなど、ネットワークづくりをしていきたい。	継続	

事業名	具体的事業内容	担当 グループ	事業量、目標 達成予定年度	26年度実績	事業達成度	事業の評価、改善事項等	課題、今後に向けての改善事項等	今後の 事業方針	事業方針の内容（未実施・廃止・ 中止の理由、追加・拡大の内容）
2 子育てと仕事の両立支援									
保育園開放事業	乳幼児の子どもとその親に保育園を開放し、遊びの場を提供することにより、子育て家庭の育児支援を行う。	児童支援		2か所 年2回	2か所 各保育園 6回	A 事業内容を達成した（100%）	予定通り園開放事業を実施でき、保育園児との交流、紹介ができて良かった。	保育園とも話し合い、交流を進めていきたい。	継続
学童保育一時預かり事業	おおむね小学校3年生までの児童を対象に緊急・一時的に保育を必要とする学童の保育を行う。	児童支援			未実施	E 着手できなかった	受入体制の整備が困難なため実施することが出来なかった。	緊急ではないが、急ぐ事情の場合は優先して早急に保育を行った。	継続
妊婦健診時一時保育	第2子以降の出産の場合、町外の産婦人科病院（医院）に通院するとき、託児する親族等がない場合に子育て支援センターで一時的に上の子の保育を行う。	児童支援			延38日（13人）	A 事業内容を達成した（100%）	初めての方、妊婦さんに声をかけをしサービスを知らせ、安心して健診を受けてもらえたと思う。	今後も親達に周知し、安心して健診に出かけられる場にしていきたい。	継続
多様な保育施策の充実・促進	事業所内保育施設などの認可外保育施設に対し保育内容の充実のための助言や指導に努める。	児童支援			実施	A 事業内容を達成した（100%）	道で実施する立入調査に同行し指導を実施している。		継続
へき地保育所の運営	上美幌、福住及び田中地区のへき地保育所を1月を除く11ヵ月間運営し、へき地の保育需要に対応していく。	児童支援			定員150人 実績 47人	A 事業内容を達成した（100%）	各保育所、毎年10人以上の児童を受入し保育を実施できた。		継続
季節保育所の運営	毎年4月から12月までの9ヵ月、農繁期などにおける就労形態に対応し地域の保育需要に対応して保育を実施する。（中央保育所）	児童支援			定員100人 実績 37人	A 事業内容を達成した（100%）	平成25年度末で美園保育所を休止し中央保育所1ヵ所での運営となり保育を実施している。	利用者の減少に伴い、廃止を検討していきたい。	継続
3 子どもの健全育成のための環境整備									
父親の子育て参画の啓発	父親が子どもと過ごす時間を設け、母親がリフレッシュする時間を確保するとともに男性の子育て参加を促進する。	保健福祉		（21年度）	啓蒙活動の実施	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	両親学級時に、妊娠、出産、育児における父親の役割を伝え、育児参加を促すことができた。	今後も父親の育児参加を促していく。	継続
父親の育児参画の推進（講座・イベント開催）	男性の子育て参加を促すため、父子参加事業の企画、両親教室の拡大、プレパパクラスの実施などを行う。	社会教育		（21年度）	実施無し	E 着手できなかった	他の町の事業との重複も見られ現行どおりの事業としては役割を終えたと考える。	子育てに関する別のアプローチを検討する。	中止
コミュニティハウスの開設	あらゆる世代がふれあい、語り合い、学び合う活動を通して、子どもたちを地域全体で育てようとする交流の場を開設する。	社会教育		（21年度）	コミュニティスクール事業の一環として実施	C 一定程度実施できた（50%）	各校区で主体的な取り組みを進めていただいた。	より多くの地域の人に参画いただけるよう呼びかける。	継続
コミュニティスクールの充実	事業・イベントの開催・運営主体に小中高校生が参画し、取り組む。年下とのふれあいも増え、次代の親となるための体験が広がる。	社会教育		（21年度）	3学校区開設	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	各校区で主体的な取り組みを進めていただいた。各小学校区を中心に地域の子どもは地域で育てるという意識の醸成につながっている。	事業内容の充実を社会教育Gと情報交換をしながら進める。	継続
子ども参画行事の推進	事業・イベントの開催・運営主体に小中高校生が参画し、取り組む。	社会教育		（21年度）	少年教育事業での取り組み	C 一定程度実施できた（50%）	平成24年度より子どもたちが主体的に事業を計画していく「おもしろキッズ共和国」も開設し、今後、一層の事業充実を図る。	子どもたちがより主体的に関われるように事業内容の工夫を行う。	継続
子どもちょっと体験教室	職業体験など社会性に留意した体験活動の機会の拡充を目指し、自ら進んで興味・関心を持ち、体験できるような新鮮で意義あるプログラムの提供を行う。	社会教育			年2回 参加延 43名	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	列車の乗車体験など社会的に必要な知識・技術を身につけるきっかけを作る事ができた。	職業体験や、歴史・文化など様々なテーマから新鮮な体験を提供できるよう関係委員と連携して取り組む。	継続
中高校生と乳幼児のふれあい体験	赤ちゃんとのふれあい体験を通じて、育児体験や生命を慈しむ心を育てる機会の充実を図る。	社会教育		（21年度）	実施無し	E 着手できなかった	参加者の減により内容を見直す必要があり、未実施となった。	事業の見直しを行う。	中止

事業名	具体的事業内容	担当グループ	事業量、目標達成予定年度	26年度実績	事業達成度	事業の評価、改善事項等	課題、今後に向けての改善事項等	今後の事業方針	事業方針の内容（未実施・廃止・中止の理由、追加・拡大の内容）
家庭・地域の教育力向上のための学習機会の充実	各自治会の活性化を促し、「人材」の掘り起こしと蓄積を行い、地域ぐるみの見守りの力を向上させる。	社会教育	(21年度)	地域資源リスト作成	C 一定程度実施できた(50%)	情報提供の方法を見直し、社会教育グループが仲介役なり実施する計画に具体性を持たせるため内部打合せを実施した。	できる限りシンプルな情報提供と情報更新の方法の検討を進める。	継続	
わんぱく教室（サークル開設講座）	親と子のふれあいを深め、参加者相互のコミュニケーションを図る。	社会教育	4回	年1回 参加者12組24名	A 事業内容を達成した(100%)	乳幼児を子にもつ母親の交流が活発に行われた。	主管となるサークルが休止となり、27年度以降については実施が難しい状況である。現在の形にこだわらず子育てに関する組織的な教育活動を創出する必要がある。	中止	サークルの休止による。
通学合宿	異なる学校や学年の子どもたちが、親元を離れ、1週間ほど集団で宿泊をしながら学校へ通学することにより、異年齢の集団活動や生活体験活動を行う。	社会教育		参加計 17名	B 事業内容をほぼ達成した(80%)	5泊6日間の合宿を通して様々なきっかけづくりや気づきを与えることができていいると考える。	子どもたちが自主的に考えて進めるプログラムを行えないか検討をするほか、学習活動の充実も検討する。	継続	
ひほろふるさと体験隊	通年で、農業体験・自然体験・仲間づくりを行う。（社会教育との連携事業）	社会教育	年1回 定員 30名	年8回 参加延180名	B 事業内容をほぼ達成した(80%)	美幌町の自然を生かした体験活動の機会を十分に提供できたと考える。	博物館G、社会教育Gそれぞれの事業を充実させていくこととする。	廃止	博物館G、社会教育Gともに多くの事業を実施しており、協議にかけ時間が少ないこと。また既にそれぞれのGで独自性のあるプログラムを実施しており、廃止しても、体験活動の機会は失われない。
おもしろ科学の祭典 in ひほろ	自然科学の不思議さ、楽しさなどを体験するとともに、こどもから大人まで科学実験を通して互いにふれあい、人と人とのつながりの大切さなどを感じ取る機会とする。	社会教育		実施	A 事業内容を達成した(100%)	一般市民が実行委員会を組織し、子どもたちに科学の楽しさを伝える事ができた。	各小学校PTAにも協力いただいているが、さらに協力いただける地域の方々を捜していきたい。	継続	
子ども対象サークル開設講座	マナビティーセンター利用サークルの主管により、親子や子どもの体験の場を拡充するとともに、地域人材と子どもがふれあう機会を作る。	社会教育		開設1講座 定員 5組 10名	B 事業内容をほぼ達成した(80%)	陶芸体験などマナビティーセンターを利用してサークルの技術の社会還元を進めることができた。	さらに多くの分野で実施ができないか関係サークルと検討を行う。	継続	
キッズカルチャークラブ	土曜日の休日を活用し、地域人材と子どもがふれあう機会を拡充する。	社会教育		団体・個人 参加延 207名	B 事業内容をほぼ達成した(80%)	文化的な体験について土曜日を活用し提供する事ができている。	子どもにとっても、生涯学習施設として気軽に足を運んでもらえるよう、事業を促進したい。	継続	
学校週5日制に伴う学校開放事業「サタ☆スポ」	学校週5日制に伴うスポーツ活動の場の提供。スポーツの楽しさを理解してもらいスポーツの日常化を図る。	ｽｽﾞｰｳ振興	市街3小学校 年9回 各館定員なし	年 9回 美小 213名 東陽小 120名 旭小 236名	B 事業内容をほぼ達成した(80%)	土曜日の休日に体育館を開放し、子ども達の主体性を持った活動を行うことができた。	地区によっては、利用人数に差が生じており、参加者増加に向け周知を工夫する必要がある。	継続	
高校生短期交換留学	美幌高校とケンブリッジ高校の相互交換留学を実施し、語学習得と学校間交流を促進する。	まちづくり	1回 定員 2名	1回1名	B 事業内容をほぼ達成した(80%)	異文化体験を通して、交流推進と人材育成が図られた。	より深く異文化との交流を図るため、留学期間を今よりも長くする必要がある。帰町報告会を開催するなど、広く市民に事業を周知する場が必要。	継続	
田んぼの学校推進事業	農業農村整備事業で整備した農地と土地改良施設への理解を深め、人材育成、都市と農村の交流、人間と自然の共生につなげる。	耕地林務	定員 50名	年4回実施（田植、観察会、稲刈、収穫祭） ・子供53名参加 延157名参加	A 事業内容を達成した(100%)	水田や水路、ため池などを、遊びと学びの場として活用し、自然と人との関わりを学ぶことができた。	新規参加者の拡大。	継続	
みどりの森 親子ふれあい農園	親子が仲良くふれあいながら専門家の指導のもと年間を通して農園で農作物づくりを体験します。	みどりの村 振興公社		年8回実施（播種、草取、収穫、加工） 子供12名参加	B 事業内容をほぼ達成した(80%)	参加者アンケートの回答内容から満足度の高さがうかがえる。	指導者（農業協力者）の高齢化、少子化によると思われる参加者の減少を鑑み、事業内容を根本的に見直す。	継続	
みどりの森 元気の森事業	元気の森を活動エリアとして、子どもとその保護者などの大人たちにより、乳幼児から児童・生徒、大人までに森林体験の楽しさの普及啓発を図る。	みどりの村 振興公社		①炭作り・森林散策16名 ②赤ちゃん記念植樹25組94名 ③森の工作教室164名 (参加者は親子)	B 事業内容をほぼ達成した(80%)	炭作り森林散策については新たな取り組みをしていきたい。赤ちゃん記念植樹、森の工作教室は目標を達成できました。	炭作り森林散策につきましては、樹木プレート取り付け等森林に関する学習内容を深めます。	継続	
教育専門相談	児童生徒の悩み、家庭での教育について幅広い相談を受ける。 教育全般相談員 1名 不登校相談員 1名	学校教育	2名配置	2名配置	A 事業内容を達成した(100%)	児童生徒や保護者へ教育に関わる専門的なアドバイスが行われている。また、引きこもりや不登校の改善などの効果が表れている。	相談員の活動に対する周知に努めてはいるものの、認知度が低いと思われる。更なるPRと専門知識の研鑽に努めていく。	継続	
少年少女水泳教室	水泳の基礎的技術の習得と体力の向上を図る。	ｽｽﾞｰｳ振興	年6回 定員 60名	実績なし	E 着手できなかった			廃止	似た種目の事業を実施していることから廃止。
初心者パークゴルフ教室	スポーツ活動を積極的に進めるために、適切なプログラムに基づいたスポーツ教室を開設し、継続的にスポーツ活動経験させることによって、スポーツの日常化を促進するとともに、スポーツ団体、グループ等の組織育成を図る	ｽｽﾞｰｳ振興	年5回 定員 30名	実績なし	E 着手できなかった			廃止	実施母体となる協会の実施希望がないため廃止。

事業名	具体的事業内容	担当 グループ	事業量、目標 達成予定年度	26年度実績	事業達成度	事業の評価、改善事項等	課題、今後に向けての改善事項等	今後の 事業方針	事業方針の内容（未実施・廃止・ 中止の理由、追加・拡大の内容）
少年少女バトミントン教室	スポーツ活動を積極的に進めるために、適切なプログラムに基づいたスポーツ教室を開設し、継続的にスポーツ活動経験させることによって、スポーツの日常化を促進するとともに、スポーツ団体、グループ等の組織育成を図る	ｽｽﾞｰﾏｰ振興	年5回 定員 20名	年 5回 11名延 45名	B 事業内容をほぼ 達成した（80%）	初回時に羽根を打つことができなかった子どもでも、終了時にはラリーを繰り返し、ゲームを楽しむことができていた。	年々、参加者が増加している半面、継続活動に繋がりがいない状態である。協会独自で少年団を発足できるようにするなど協会と話し合いが必要。	継続	
少年少女スケート教室		ｽｽﾞｰﾏｰ振興	定員 150名	年 5回 24名延104名	B 事業内容をほぼ 達成した（80%）	一人で氷の上に立てなかった子どもも、終了時には一人で立てるようになり、滑ることを楽しんでいた。	スケートシーズンと重なっており指導者の確保が難しい。協会との調整を図り、開催日時や実施回数を検討する。	継続	
初心者スノーボード教室		ｽｽﾞｰﾏｰ振興	定員 20名	年5回 17名延 71名	B 事業内容をほぼ 達成した（80%）	スキー場利用におけるマナーやルールの習得、個々のレベルに応じて指導する事で、上達が見えた。	参加者の増に向けて、学校や報道関係から開催を周知してもらい、参加者の更なる拡大を図る。	継続	
ジュニアクロスカントリースキー教室		ｽｽﾞｰﾏｰ振興	定員 30名	年5回 26名延129名	B 事業内容をほぼ 達成した（80%）	初心者から上級者まで、レベルや経験年数に応じた細かな技術指導を行い、参加者のレベルアップが図られた。	参加者の増に向けて、学校や報道関係から開催を周知してもらい、参加者の更なる拡大を図る。	継続	
ラッコ水泳教室		ｽｽﾞｰﾏｰ振興	定員 50名	年6回 47名延136名	A 事業内容を達成 した（100%）	今年から学年に分けて指導した結果、レベルに合わせた指導ができるようになり、全員が水に慣れることができた。	指導者が少なくなってきたことから、指導者の確保が困難になってきている。参加人数の調整や指導者確保の検討が必要。	継続	
サッカー教室		ｽｽﾞｰﾏｰ振興	定員 50名	年5回 24名延101名	B 事業内容をほぼ 達成した（80%）	小学生低学年を対象にサッカーのルールや技術を習得し、サッカーに興味を持ってもらうことができた	サッカーの人数も年々減少しており、教室から少年団へ入団できるよう、活動の普及振興を図る必要がある。	継続	
ペタンク教室		ｽｽﾞｰﾏｰ振興	定員 30名	年5回 13名延49名	B 事業内容をほぼ 達成した（80%）	日頃経験の少ないペタンクを体験し、楽しさやルールを習得することができた。	少年団も平成27年度より発足予定であり、教室から競技活動へ繋げ、ペタンクの普及振興を図ることが必要。	継続	
幼児体力テスト・運動実技指導	幼児の体力傾向を探り、運動を処方する。	ｽｽﾞｰﾏｰ振興	幼児 定員 300名	体力測定 年1回 96名 運動実技指導 2回 52名	B 事業内容をほぼ 達成した（80%）	体力測定の結果から、体力の低下をしている保育園・所に対し、体力向上に向けた運動プログラムを指導し、身体を動かす楽しさを伝えることができた。	保育園・所で、それぞれの対象に応じた適切な指導や教材を提供し、子どもの体力向上へ繋げる工夫が必要。	継続	
水泳技能検定	水泳の継続的活動を促進し、技術・体力の向上及びチャレンジする意識の高揚を図る。	ｽｽﾞｰﾏｰ振興	年2回	年 1回 37名	B 事業内容をほぼ 達成した（80%）	水泳少年団を中心に泳力検定を実施し、個々の水泳技能向上に繋がった。	目標に向かう意識の高揚を図るため、参加する子どもの練習強化や目標を定める工夫をする	継続	
親子で親しむスポーツ等の実施	親子で参加する運動、スポーツの機会を通して家族間の交流を図る。	ｽｽﾞｰﾏｰ振興		年 6回 17組延122名	B 事業内容をほぼ 達成した（80%）	親子を通じて子どもの水に親しむ能力や親子のコミュニケーションを図ることができた。	参加者の拡大を図るため、広報だけでなく、幼稚園・保育所等へ連絡し、周知拡大を図る。	継続	
スポーツ少年団育成	スポーツ少年団の活動援助と結成促進	ｽｽﾞｰﾏｰ振興	17団体	17団体	A 事業内容を達成 した（100%）	昨年度と同様17団体の加盟があった。	スポーツ少年団の入団数増加だけでなく、指導者育成に対し、講習会の開催等を開催して指導者の資質向上を図ることが必要。	継続	
中3体力講習		ｽｽﾞｰﾏｰ振興	年5回	年 5回 26名延123名	B 事業内容をほぼ 達成した（80%）	日赤北海道看護大教授である山本恵志准教授を招聘し、トレーニング理論や体力向上など専門的な知識を学ぶことができた。	大学教授からの専門的な理論や講話を取り入れ、参加者の興味が増えるような事業を引き続き実施する。	継続	
B&G会長杯町民水泳大会	大会を通して、水泳の普及振興を図るとともに町民の健康・体力の保持増進と相互の親睦交流を図る。	ｽｽﾞｰﾏｰ振興	年1回	年 1回 50名	B 事業内容をほぼ 達成した（80%）	美幌水泳協会が運営の中心となって大会が開催され、水泳愛好者の記録更新が図られた。	B&G海洋センターを利用する常連者への参加を呼びかけ、水泳愛好者の増加を図る。	継続	
わんぱくスポーツ教室	土曜日の休日を利用し、身体活動を通して、異年齢の交流と協調性や創造力を高め、スポーツを楽しむながら健康体力づくりの積極的な取り組みを促進する。	ｽｽﾞｰﾏｰ振興		年9回 50名延 239名	A 事業内容を達成 した（100%）	子ども達の多種多様な遊びや運動を体験させることで、体を動かす楽しさを知ってもらい、体力向上、参加者同士の相互の交流が図られた。	指導者間の連携や指導の資質向上に努め、より充実した運動体験が出来るようにする。	継続	
チャレンジキッズスポーツ教室	発育発達の良い幼児期に身体を動かすことによって、健康・体力の保持増進を図り、生活習慣や人間形成を身につけさせる。	ｽｽﾞｰﾏｰ振興	定員 30名	年8回 36名延 250名	A 事業内容を達成 した（100%）	文部科学省の委託事業が採択され、幼児教育の有識者である拓殖大学北海道短期大学岡准教授を招聘し、幼児へ身体を動かす楽しさを伝えるとともに、指導者の資質向上が図られた。	幼児期におけるスポーツ事業も、類似した事業があることから、事業を一本化するとともに、幼児指導における指導者の資質向上を図る必要がある。	継続	

事業名	具体的事業内容	担当グループ	事業量、目標達成予定年度	26年度実績	事業達成度	事業の評価、改善事項等	課題、今後に向けての改善事項等	今後の事業方針	事業方針の内容（未実施・廃止・中止の理由、追加・拡大の内容）
キッズ☆ビートスポーツ教室	発育発達の良い幼児期に身体を動かすことによって、健康・体力の保持増進を図り、生活習慣や人間形成を身につけさせる。	ｽｽﾞｰｳ振興	定員 30名	年8回 24名延157名	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	幼児期に遊びや運動を経験させるとともに、身体を動かす楽しさを伝えることができた。	幼児期におけるスポーツ事業も、類似した事業があることから、事業を一本化するとともに、幼児指導における指導者の資質向上を図る必要がある。	継続	
感動体験スポーツ研修	町外から離れ、普段体験できない自然体験活動や異年齢との集団生活を通して、連帯感・責任感・積極性・自立性を養う。	ｽｽﾞｰｳ振興	定員 36名	年1回 25名	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	親下を離れ、様々な体験と集団生活を通して、楽しさ、辛さ、忍耐等を養うとともに、親への感謝の気持ちを感じてもらい、人間的に成長するきっかけをつくることができた。	開催日時において、町の事業や大会などと重なり、参加者が減少しているため、日程の調整が必要である。	継続	
おはなしのへや（幼児・児童・父母）	豊かな人間性を育て、読書への関心を芽生えさせるための絵本・紙芝居の読み聞かせを実施する。	図書館	年12回	年24回 延228名	A 事業内容を達成した（100%）	予定通り実施出来た。	多くの町民に利用して欲しい。	継続	
絵本とあそぼ！（乳幼児・父母） （旧わくわくとしょかん）	乳幼児を対象としたお楽しみ会、読み聞かせ会を行う。	図書館	年12回	年23回 延331名	A 事業内容を達成した（100%）	予定通り実施出来た。	多くの町民に利用して欲しい。	継続	
保育園読み聞かせ巡回	ボランティアの協力を得て、保育園において読み聞かせの巡回を行う。	図書館	年2回	2ヶ所 年21回	A 事業内容を達成した（100%）	予定通り協力を得て実施された。		継続	
子ども映画会	映画鑑賞を通じて、日本及び世界の文学を理解するとともに、親子のコミュニケーションの素材を提供する。	図書館	年12回	年12回 延220名	A 事業内容を達成した（100%）	予定通り実施出来た。		継続	
おはなしと工作の広場	学校週5日制に伴い、子どもたちがお話や工作を通して手作りの楽しさや物語の世界にふれる場として教室を実施する。	図書館	年12回	年4回 延37名	A 事業内容を達成した（100%）	予定通り実施出来た。	多くの町民に利用して欲しい。	継続	
手づくり絵本講習会	手づくり絵本を作る楽しさを普及するため、講座を実施する。	図書館	年1回	年1回 14名	A 事業内容を達成した（100%）	予定通り実施出来た。	多くの町民に利用して欲しい。	継続	
学校文庫	学校単位で3か月ごとの1回巡回配本。	図書館	周辺校1校	完了	A 事業内容を達成した（100%）			廃止	平成26年度から旭小学校に統合され廃校
学級文庫	学級単位で団体文庫を設置する。	図書館	市街3小学校	市街3小学校	A 事業内容を達成した（100%）	予定通り実施出来た。		継続	
おはなし文庫	1セット55冊として期間中、月1回巡回配本。	図書館	季節保育所12回	季節保育所12回	A 事業内容を達成した（100%）	予定通り実施出来た。		継続	
幼稚園文庫	幼稚園児を対象とした図書を毎月1回配本する。	図書館	幼稚園12回	幼稚園12回	A 事業内容を達成した（100%）	予定通り実施出来た。		継続	
読書感想文コンクール	児童生徒の読書力、表現力の向上を目的として小中学校及び学校図書館協会との連携のもとに感想文を募集する。	図書館	年1回	年1回	A 事業内容を達成した（100%）	予定通り実施出来た。		継続	
児童生徒作品展	展示機能を活用し、学校の協力を得て児童生徒の作品の発表の場を提供する。（市街3小学校の輪番）	図書館	年1回	年1回	A 事業内容を達成した（100%）	予定通り実施出来た。		継続	
ユニットライブリー	図書館と地域を結び拠点として、毎週土曜日午後に関館	図書館	町内5か所	町内2か所	A 事業内容を達成した（100%）	予定通り実施出来た。	利用者の拡大を図りたい。	継続	

事業名	具体的事業内容	担当グループ	事業量、目標 達成予定年度	26年度実績	事業達成度	事業の評価、改善事項等	課題、今後に向けての改善事項等	今後の 事業方針	事業方針の内容（未実施・廃止・ 中止の理由、追加・拡大の内容）
図書館ボランティアの日	図書館ボランティアの日を制定し、図書館内でのボランティア活動の場を設ける。	図書館	年5回	年12回 延56名	A 事業内容を達成した（100%）	予定通り実施出来た。	協力者を多くしたい。	継続	
ブックスタート	10ヶ月健診時に乳幼児への読み聞かせの大切さや、その方法を説明するとともに絵本などを配布する。	図書館		年8回 143名	A 事業内容を達成した（100%）	予定通り実施出来た。		継続	
絵本展示	子ども読書週間に合わせ絵本の展示・紹介を行う。	図書館		年1回	A 事業内容を達成した（100%）	予定通り実施出来た。		継続	
夏休み子ども自然教室	動植物の野外観察と標本づくりを通して、身近な自然に親しんでもらう。	博物館	年3回 定員 10名	未実施	E 着手できなかった	実施時期が他の事業も集中していることもあり、実施しなかった。	実施時期が他の事業も集中していたり、学校授業の中で先生方と連携した自然体験授業を数多く対応している。継続するが検討の余地有。	継続	
こどもの日無料開放	柏餅配布、せんべい焼き体験、工作教室などを通して、身近に博物館を感じてもらおう。	博物館	年1回	年 1回	A 事業内容を達成した（100%）	事業内容充実していた。ただ、せんべい焼き体験において、ヤケド事故が発生したため、安全体制や保険加入について、体制を整える改善策を協議した。	内容充実に努めたい。	継続	
冬季作品展	町内の小中学校の児童生徒の作品を紹介	博物館	年1回	年 1回	A 事業内容を達成した（100%）	事業内容充実していた。	内容充実に努めたい。	継続	
学校教育との連携事業 (旭小学校自然体験事業)	先生と学芸員との連携による自然体験事業の実践。学校との連携のあり方を考える。	博物館	年8回	年 6回	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	事業内容充実していた。対象が旭小だけではなく、町内他小中学校での対応が増えていること、自然体験だけではなく、歴史体験、モノ作り体験等も増えており、充実している。	依頼件数が増えており、その分、対応する担当職員の負担も増えており、効率的な事業運営が求められる。	継続	
自然講座	身近な自然をテーマにした講演会・観察会を通して、美幌の自然の面白さや貴重さを知ってもらう。	博物館	定員 30名	年 7回 延べ 335名	A 事業内容を達成した（100%）	事業内容充実していた。	内容充実に努めたい。	継続	
子ども工作教室	簡単な電子工作を行い、工作する面白さを知ってもらう。	博物館	年3回 定員 10名	年 1回 延べ 13名	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	事業内容充実していた。目標が年3回になっているが、時間的制約の都合で、年1回に変更したい。	内容充実に努めたい。	継続	
美幌ふるさと祭り	祭りの出店、イベントから暴力団（関係者）を排除し、青少年の健全育成を促進する。	まちづくり		子ども横丁設置。 会場内通路を禁煙とし、子どもの安全を確保。	A 事業内容を達成した（100%）	美幌ふるさと祭りから暴力団を排除しており、また、子供達が安心して楽しめる子ども横丁を設置や会場内通路の禁煙により、青少年の健全育成が促進された。	平成27年度より、ふるさと祭りの出店者について、町外在住者であっても町内で仕事をしており、且つ職場から証明された者のみ従事を認めることにより、チェック体制の強化が必要。	継続	
児童館機能を有する子ども拠点施設の整備（コミュニティセンターの充実）	コミュニティセンターに児童館機能を設け、子育て、発達を移し、子どもを始め親子の居場所づくりを重点的に取り組む。	児童支援	（21年度）	継続	A 事業内容を達成した（100%）	取り組んでいる。	内容充実に努めたい。	継続	
有害図書・有害情報規制活動の推進	有害図書やインターネット、携帯電話の有害情報に対する規制などの浄化活動を推進する。	社会教育	（21年度）	オホーツク総合振興局による浄化活動への支援	A 事業内容を達成した（100%）	随時連携して取り組んでいる。	今後も継続して支援を行う。	継続	
少年少女非行防止運動標語	町内の小・中・高校生を対象に、防犯意識の高揚と青少年の非行防止を目的とした標語の募集を実施し、入選作品10作品を表彰している。	まちづくり		高校生対象… 460点応募	A 事業内容を達成した（100%）	少年少女の非行防止の意識を高めることができた。	町内の学校全てから応募がなされるような対応が必要。	継続	
4 子どもと子育てに優しいまちづくり									
薬物、喫煙防止等活動の推進	薬物乱用や喫煙防止のため教育、指導活動を推進する。	保健福祉	（21年度）	薬物・禁煙教育 小学生：177人	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	学校と連携しながら、薬物・喫煙についての健康教育を実施し学習の機会をもつことができた。	今後も継続実施に向け、学校と連携を図っていく。	継続	

事業名	具体的事業内容	担当 グループ	事業量、目標 達成予定年度	26年度実績	事業達成度	事業の評価、改善事項等	課題、今後に向けての改善事項等	今後の 事業方針	事業方針の内容（未実施・廃止・ 中止の理由、追加・拡大の内容）
声かけ運動の推進	おはよう、こんにちは、車に気をつけてなど、地域の子供たちに声をかけることによる見守り活動	社会教育	(21年度)	年17回実施 新入学期、始・終業 日、春・夏・冬休 み、不審者情報時	A 事業内容を達成 した(100%)	始・終業式を中心に、地域の大人が 子供たちを見守っているという姿 を見せることができた。	計画した声かけ活動以外の日常において もさわやかな挨拶を交わせる地域を目指 し取り組みを進める。	継続	
交通安全教室の開催	小中高校、幼稚園、保育所、保育園 等を対象に交通安全指導をする。	まちづく り	年17回	年25回	B 事業内容をほぼ 達成した(80%)	子ども達の交通事故防止のため幼稚 園学校等の協力をいただき交通安全 についての意識啓発を図ることがで きた。	高校については独自で実施しているが、 それぞれの対象に応じた適切な指導や教 材の提供など内容の充実を図っていきた い。	継続	
全町自転車安全運転 教室の開催	自治会交通安全部会、自治会女性 部、警察、交通少年団等の協力を得 て、安全運転の実技指導をする。	まちづく り	年1回		E 着手できなかった	各学校や団体に出向き交通安全教室 を実施しており、全町的な教室の開 催には至っていない。		廃止	各学校や団体に出向き交通安全教 室を実施しているため。
交通安全ポスター・ 作文コンクール	交通安全の意識の啓発のため、町内 小中学生からポスター・作文を募集 し、作品を展示する。	まちづく り	年1回	年1回	B 事業内容をほぼ 達成した(80%)	小中学校へ協力を依頼し、児童生徒 へ交通安全に対する意識の高揚を図 ることができた。	ポスターの出展数の減少や作文の提出が ないなど取り組みについてさらに協力を 求める必要がある。	継続	
消防チビッ子大会	子どもたちが消防署に親しみ、防火 に対する意識を高め、遊びを通じて 火遊びなどを防止し、安心・安全な まちづくりを行う。	消防署		年1回 約600名参加	A 事業内容を達成 した(100%)	平成25年度は雨天のため参加者が 減少しているが目標値の400名を達 成している。	雨天時は屋内で開催しているが天候に左 右されない事業の検討。	継続	
子どもの安全確保の 充実	登下校時における児童生徒の安全を 確保するため不審者情報を携帯電話 などにより周知する。	学校教育		継続	A 事業内容を達成 した(100%)	教育委員会が把握した情報が速やか に多くの方へ周知出来、児童生徒の 安全確保に繋がっている。	導入当初からのシステムのため、ソフト の更新が必要。(使用できるパソコンが 限られているため)登録者数の更なる拡 大を図る。	継続	
子ども110番活動 の充実	子どもを犯罪から守り、被害を最小 限に止めるため、トラブルに巻き込 まれそうになったときに助けを求め られる場を確保する。	まちづく り	(21年度)	0世帯	D 着手はしたが一 定程度まで達しな かった(30%)	新規登録世帯はないが、各自治会の 防犯部長が登録世帯へステッカーの 更新等と呼びかけ、事業の継続に努 めている。	新規登録世帯の増や既登録世帯の更新が 必要。	継続	